



武田正先生を 偲ぶ会



去る五月十日(土)午後一時
三十分より、夕鶴の里語り部ホ
ールにて、「武田正先生を偲ぶ
会」が行われた。当日は天候にも
恵まれ、多くの方が出席され
た。

実行委員長の挨拶から始ま
り、お別れの言葉の他に民話の
語りも披露され、終始和やかな
雰囲気で行われた。

別室には武田先生の書かれた
書籍や、貴重なガリ版なども展
示され、来館された方々は、ゆっ
くりと見ていかれた。

夕鶴の里資料館報

平成26年5月20日
第41号
発行 夕鶴の里
TEL 47-5800



- お別れの言葉
 - ・南陽市長 塩田 秀雄 氏
 - ・前山形県民俗研究 協議会会長 大友 義助 氏
 - ・神奈川大学経済学部教授 佐野 賢治 氏
 - ・東北文教大学短期大学部 民話研究センター長 佐藤 晃 氏
 - ・教え子代表 富樫 とみよ 氏



◀ 武田先生愛蔵書
コーナー



- 民話の語り
 - 「若返りの水」 長沢 登代 さん
 - 「どろぼうの手」 山路 愛子 さん
 - 「鶴の恩返し」 多勢 久美子 さん

▶ 遺族の方にお持
ち頂いた武田先
生の遺品



第5回おきたま語りフェスティバル

第一部 語り&トーク

◇ゲスト 渡部 弘之 氏

第二部 民話口演

◇おきたま語り部の会の発表

日時: 2014年6月22日(日)午後1時30分~4時
場所: 白鷹町文化交流センターあゆむ(入場無料)

デスティネーション
キャンペーン
6月よりスタート!
山形デスティネーションキャンペ
ーンが、いよいよ来月6月14日
(土)からスタートします!
デスティネーションキャンペーン
とは、県内の自治体、各種団体、
民間事業者が一丸となり、JR
の協力のもと行う、観光キャンペ
ーンです。
期間: 平成26年6月14日(土)~
9月14日

民話会ゆうづる 会員紹介

今回は、民話会ゆうづるの会員、戸田節子さんをご紹介します。

Q、民話会ゆうづるの会員となったきっかけは？

A、戸田

(民話会ゆうづる)初代川合会長とは職場が同じで上司だった事もあり、どんな事やるのか興味がありました。退職後は内外孫達の存在もあり、語って聞かせてやりたいとの思いもありました。自分でもこれまで語り続けて来れたこと、ビックリしております。

Q、語り部となられて良かった事はなんですか？

A、戸田

同じ立場の方達との交流と、同時に(夕鶴の里)友の会会員に入れて頂き、毎年の日帰り研修会に参加出来、見聞を広めるチャンスを得た出来事。

Q、語り部として一番嬉しかったことをあげるとしたら？

A、戸田

お客様が私の語りが終わってから、側に来て「えやあ、感動した、涙が出た。ゆったりした語りで気持ち豊かになった。」って、喜んで下さった事。おんだがっす。ほんじやまだ来ておごやえなつす。」って感謝しております。

Q、昔話(民話)とは、戸田さんにとってなんですか？また、好きな民話は？

A、戸田

やつぱり昔はおぼ子を寝せるための子守歌だったなだから、後世に伝えていく事が一番だと思えます。

大人も子供も喜んで聞いておごやるのは「月に行った兔」とか、地元で伝わる民話「鶴の恩返し」かな。

Q、語りを通して、大切にしている事、物でも教えてください。

A、中々、思っても出来ませんが、『ナンバーワンよりオンリーワン』ですね。自分らしさを失わずに、心で語る事。そうすると、相手に気持ちが伝わるような気がします。

Q、最後に、これからの事や今思っていること。何でも…。

A、語り手の後継者の育成ではないでしょうか。

初代川合会長に自分の語りを聞いてもらいたい、指導してもらいたかった。

朗読の勉強がしたいと思っております。詩とか、戦争体験、災害の事等。子供達には絵本の読み聞かせ等、出来たらいいなあと。



戸田 節子 さん

漆山地区 地名伝説集

〈曾我の涙雨〉

むかーし、昔の話しだど。織機川あ。池黒村の真中流れった頃、あつたなだけど。さつき(五月)の末頃、ここ、池黒あー七日七晩毎日々大雨降り続いたど。古川あ、溢れ、川押しあできるし、山崩れあ起きるしで、田圃あーいづめん(一面)に沼みでになつたなだけど。そーして、水あ、何日たつても引かねだど。村の人達あ空仰いで困つた、困つた、ため息ぼっかりついつたど。そこで、村の年より集まつて、

「これあー、曾我様の涙雨だー」て、高台さ、ぼんでんをたてて、木を植えて、神主様に、お祈りしてもらつたなだど。そーしたば、水あ引けたなだけど。そこで、大つけない石塔たてて、お供養したなだけど。

それから、大日照には、そこで雨乞いを、大雨には雨が晴れるように、お祈りしたなだけど。

今も、地区の人によつて曾我様のお祭りがずーと続いているのよつす。

とーびんと。

※向かつて右を十朗、左を五郎とつたえられ、それぞれに、正慶二年、永年□年銘あり置賜型板碑である。県指定の文化財である。

永仁□年阿弥陀板碑

所在：池黒(漆山)
所有者：池黒地区
指定年月日：昭和30年8月1日

高さ270cm、幅額下72cm、下部106cmである。正慶二年の板碑と並んで立っている。
(鎌倉時代) [E-5]

▲県指定文化財
永年□年阿弥陀板碑
(『南陽市の文化財案内』より)

▼県指定文化財
正慶二年阿弥陀板碑
(『南陽市の文化財案内』より)

正慶二年阿弥陀板碑

所在：池黒(漆山)
所有者：池黒地区
指定年月日：昭和30年8月1日

高さ285cm、幅は額67cm、下部94cm正慶2年(1333年)は北朝年号。(鎌倉末期) [E-5]

地名伝説担当編集
おりはたの里づくり
推進会議

永仁は、鎌倉中期であり、正慶二年は、北朝年号で、南朝年号では元弘三年となつており、誰が、なんのために立てたかは記録にはない。この二基の碑を『曾我の碑』と呼ぶようになったのも不明である。毎年旧五月二十七日、二十八日のいわゆる『曾我の日』には今も、供養が続けている。